

点検結果表の見方

- (1) 「政策の名称」

各評価書に記載されている名称を記載している。なお、一つの評価書において、二つ以上の作用を含んでおり、作用ごとに発生する効果と負担の関係を分析しているものについては、作用ごとに分割して点検しており、括弧内の「○囲み数字」以下で点検の対象とした作用の単位を示している。
- (2) 「規制の区分」

[新設等] は規制の新設、追加、強化又は拡充を、[緩和] は規制の緩和を、[廃止] は規制の廃止を表す。
- (3) 「評価の実施状況」

各点検項目について、2から5の区分を設けており、該当する区分を [■] で示している。
- (4) 「課題」

「○囲み数字」が記入されている場合には、各点検項目において、必要な分析がされていない、説明が不十分と認められるなどの疑問点・問題点等があることを表す。
- (5) 「分析対象期間」

[設定あり]：分析対象期間(費用及び便益の分析に当たって、分析の対象とする期間)が設定されていることを表す。
[設定なし]：分析対象期間が評価書において設定されていないことを表す。
- (6) 「ベースライン」

[設定あり]：ベースライン(規制の新設又は改廃を行わない場合に生じると予測される状況)が設定されていることを表す。
[設定なし]：ベースラインが評価書において設定されていないことを表す。
- (7) 「費用の分析」

[金銭価値化]：発生又は増減する費用の要素が原単位(通貨単位)と対象数の積により推計されていることを表す。
[定量化]：発生又は増減する費用の要素が原単位(通貨単位以外)と対象数の積により推計されていることを表す。
[定性的記述]：発生又は増減する費用の要素が金銭価値化又は定量化以外の方法で説明されていることを表す。
[負担なし]：発生又は増減する費用の要素がない旨が説明されていることを表す。
[分析なし]：費用の要素が説明されていないことを表す。
- (8) 「便益の分析」

[金銭価値化]：発生又は増減する便益の要素が原単位(通貨単位)と対象数の積により推計されていることを表す。
[定量化]：発生又は増減する便益の要素が原単位(通貨単位以外)と対象数の積により推計されていることを表す。
[定性的記述]：発生又は増減する便益の要素が金銭価値化又は定量化以外の方法で説明されていることを表す。
[分析なし]：便益の要素が説明されていないことを表す。
- (9) 「費用と便益の関係の分析」

[費用便益分析]：金銭価値化された費用と便益を推計して、費用と便益の関係(規制によって得られる便益が、当該規制がもたらす費用を正当化できるかどうか)が分析されていることを表す。
[費用効果分析]：一定の定量化された便益(効果)を達成するために必要な金銭価値化された費用を推計して、費用と効果の関係が分析されていることを表す。
[費用分析]：便益が複数案間ではほぼ同一と予測される場合や明らかに便益の方が費用より大きい場合等に、便益の詳細な分析を行わず費用を中心に分析されていることを表す。なお、数値化された費用が比較されているものについて費用分析とし、数値化されていないものについては定性的な分析として整理している。
[定性的な分析]：費用と便益の関係が費用便益分析、費用効果分析又は費用分析以外の方法で説明されていることを表す。
[分析なし]：費用と便益の関係が説明されていないことを表す。
- (10) 「代替案の設定」

[設定あり]：ベースライン以外の代替案が設定されていることを表す。
[想定される代替案なし]：「代替案は想定されない」、「想定される代替案：特になし」等と記載されていることを表す。
[設定なし]：代替案についての記載がない(ベースラインが代替案として設定されているものを含む。)ことを表す。
[廃止案を代替案としている]：規制緩和の場合において、規制の廃止が代替案として設定されていることを表す。
[廃止案を代替案としていない]：規制緩和の場合において、規制の廃止が代替案として設定されていないことを表す。
- (11) 「代替案との比較」

[費用・便益で比較]：費用及び便益の両方について本件規制と代替案との比較が行われていることを表す。
[費用で比較]：費用についてのみ本件規制と代替案との比較が行われていることを表す。
[便益で比較]：便益についてのみ本件規制と代替案との比較が行われていることを表す。
[比較なし]：本件規制と代替案との比較が評価書において行われていないことを表す。
- (12) 「レビューを行う時期又は条件」

[設定あり]：レビューを行う時期又は条件が明らかにされていることを表す。
[設定なし]：レビューを行う時期又は条件が評価書において明らかにされていないことを表す。